

京都の伝統産業品「和蠟燭」の原料ハゼノキの栽培方法を確立 (農林センター)

京都の伝統産業品「和蠟燭」の原料となるハゼノキの実を府内産で安定供給してほしいとの要望があるが、要望に応えられていない。そこで、自生地である丹後地域において自生状況を把握し、栽培適地を確認するとともに、栽培方法を確立しました。今後、マニュアルを活用し、ハゼノキの産地拡大につなげていきます。

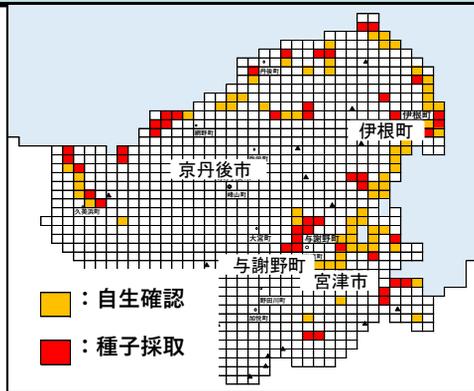
背景

- ・ハゼノキの実は、京都の伝統産業品「和蠟燭」の原料で、府内産の安定供給への要望大
- ・府内では過去に栽培、出荷の記録があるが、現在はみられない

課題等

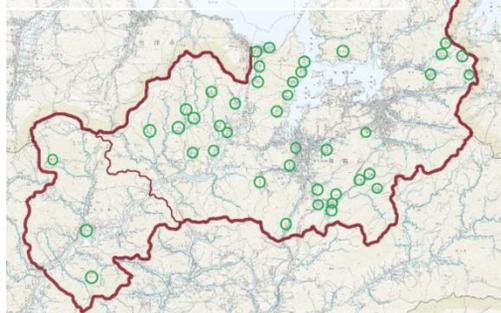
- ・丹後地域におけるハゼノキの自生地調査による栽培適地の検証
- ・過去の産地資料から栽培に適した条件の抽出
- ・丹後地域における栽培方法の確立

ハゼノキの自生を調査(丹後地域)



ハゼノキの実が「物産」として地誌に記述のあった地域

舞鶴市・福知山市大江 地区



出典:京都府地誌(明治14~17年 京都府)

ハゼノキ栽培マニュアルを作成



■ マニュアルのポイント

- ①優良品種、栽培適地、利用法など最新情報を記載
- ②接ぎ木、施肥、間引、病虫害防除など栽培のコツを例示
- ③蠟燭店との連携など販売のアイデアを紹介

研究成果

・丹後地域においてハゼノキの植栽適地の判定や、管理、採集等の技術を確立

⇒ 生産者に対し、マニュアルを用いた指導を実現

■ 現 状

【特用林産物】生産量: -

■ 技術導入後

【特用林産物】生産量: 500kg/10a(最終 2,000kg/10a)

今後の展開

ハゼノキ産地を形成をすることで、和蠟燭の原料の安定供給や雇用確保に繋げていきます